



IGC

事務局ニュース

No.30
第29回IGC事務局

〒305 筑波学園郵便局 私書箱65号

電話：0298-54-3627
ファックス：0298-54-3629

IGC 参加者4200人を超える

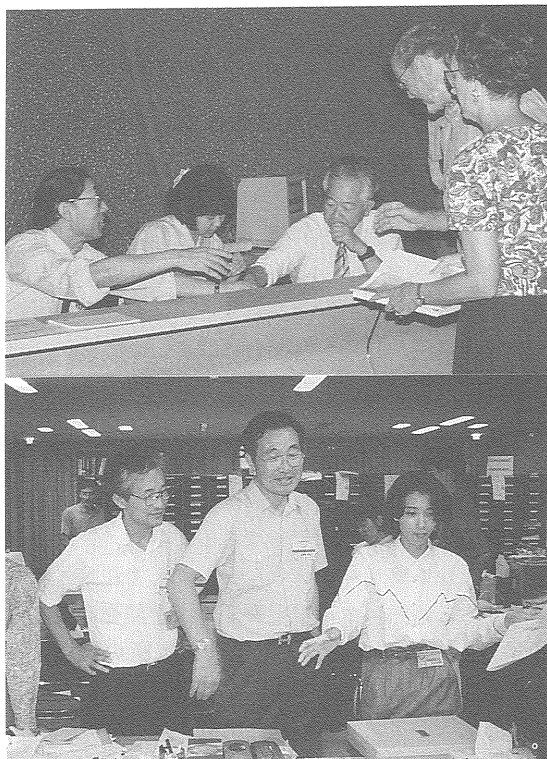
今回のIGC参加者は、9月3日の暫定終計で、87カ国から合計4205人となり(同伴者254人)、1980年の第26回パリ会議での4541人および1984年の第27回モスクワ会議での4666人に次ぐ規模になりました。50人以上が参加したのは下表の11カ国です。()内は7月3日現在の登録総数、以下の人数には同伴者は含まれません。

日本	: 1786(1276)
米国	: 409(328)
C I S (旧ソ連)	: 296(281)
中国	: 236(243)
フランス	: 135(131)
ドイツ	: 99(93)
イギリス	: 90(84)
イタリア	: 85(69)
オーストラリア	: 75(64)
カナダ	: 73(58)
インド	: 53(70)

この他の主な参加国と人数は、イラン(42)、台湾(40)、韓国(37)、スイス(36)、スウェーデン(25)、スペイン(24)、ブラジル(22)、オランダ(22)、タイ(21)、フィンランド(19)、チェコスロバキア(17)、インドネシア(17)、フィリピン(16)、南アフリカ(15)、ポーランド(14)、ポルトガル(12)、オーストラリア(12)、ベルギー(11)、ニュージーランド(11)、アルゼンチン(10)。

ON SITEの登録者が非常に多かった事は事務局としても予想外で、一時はアブストラクトなど参加者に配付するものが足りなくなるのではないかと心配した程でした。

多数の聴衆で活気を呈していたセッションが多かった事も今回のIGCの特徴で、参加者からは極め



会議運営寸景：(上) プログラムデスク、左端は科学プログラム小委員長 久城育夫教授；(下) 本部にて、左端は会場小委員長 西村進教授。撮影：佐藤興平

てよく組織されていた(例えば、前回のワシントン会議事務局長 B. Hanshow 氏談)との評価を頂きました。しかし、会議運営の核となったメインホール脇の本部では、プログラムの再編成、新聞「京都」の発行、ジオホストへの対応、参加者のビザの問題や突発的な事故の処理等々で、連日深夜まで仕事が続きました。京都の学生やアルバイトの人達がきびきびと動きまわってくれたのも印象的で、多くの人の奮闘のおかげで無事IGCを終えることが出来ました。